「福島第一原子力発電所第1~4号機に対する「中期的安全確保の考え方」に基づく施設運営計画に係る報告書(その1)(改訂2)」 添付資料「1.原子炉圧力容器・格納容器注水設備」の記載内容に関する正誤表について

ページ番号	変更前	変更後
1-5	(4) 電源	(4) 電源
	原子炉注水系の電源構成図を図 1 - 8 に示す。常用高台炉注	原子炉注水系の電源構成図を図 1 - 8 に示す。常用高台炉注
	水ポンプ、常用高台原子炉注水系ポンプの圧力ならびに注水流	水ポンプ、常用高台原子炉注水系ポンプの圧力ならびに注水流
	量の監視に用いている監視カメラ(事務本館海側駐車場) 注	量の監視に用いている監視カメラ(事務本館海側駐車場) 注
	水流量の監視に用いている計装用計器の電源およびタービン	水流量の監視に用いている計装用計器の電源およびタービン
	建屋前に設置した 1~3 号機原子炉注水流量監視カメラは所内	建屋前に設置した 1~3 号機原子炉注水流量監視カメラは所内
	共通 M/C(1A)から受電し、 所内共通 M/C(1A)は夜ノ森 1 号線か	共通 M/C(1A)から受電し、 所内共通 M/C(1A)は夜ノ森 1 号線か
	ら受電している。所内共通 M/C(1A)は、夜ノ森 1 号線が停電し	ら受電している。所内共通 M/C(1A)は、夜ノ森 1 号線が停電し
	た場合、手動による受電切替により、夜ノ森2号線、大熊2号	た場合、手動による受電切替により、夜ノ森2号線、大熊2号
	線、電源車、5 号機および 6 号機非常用 D/G からの受電が可能	線、電源車、5 号機および 6 号機非常用 D/G からの受電が可能
	となっている。純水タンク脇炉注水ポンプは、仮設 1/2 号	となっている。 <mark>(改行)</mark>
	M/C(B)から受電しており、仮設 1/2 号 M/C(B)は大熊線 2 号線	純水タンク脇炉注水ポンプは、仮設 1/2 号 M/C(B)から受電し
	から受電している。仮設 1/2 号 M/C(B)は大熊線 2 号線が停電し	ており、仮設 1/2 号 M/C(B)は大熊線 2 号線から受電している。
	た場合、手動による受電切替により、東北電力東電原子力線、	仮設 1/2 号 M/C(B)は大熊線 2 号線が停電した場合、手動による
	夜ノ森 1・2 号線、電源車、5 号機および 6 号機非常用 D/G (5	受電切替により、東北電力東電原子力線、夜ノ森 1・2 号線、
	号機2基、6号機2基の計4基)からの受電が可能となってい	電源車、5 号機および6号機非常用 D/G (5 号機2基、6 号機2
	る 。	基の計4基)からの受電が可能となっている。
1-7	今後については、温度計の不確かさ(20 以内)を踏まえて	今後については、温度計の不確かさ(20 以内)を踏まえて
	も原子炉圧力容器底部温度を概ね100 以下に維持できるよう	も原子炉圧力容器底部温度を概ね 100 以下に維持できるよう
	に、原子炉圧力容器底部温度について約 80 以下に維持する	に、原子炉圧力容器底部温度について約 80 以下に維持する
	ことを目標に注水量を管理していく。	ことを目標に注水量を管理していく。また、燃料の一部が原子
		炉格納容器に移行している可能性を考慮して、原子炉格納容器
		内温度についても合わせて確認することとし、原子炉格納容器
		内温度に全体的に著しい温度上昇傾向がないように注水量を
		管理していく。 (文章を追記)